

# 畜産試験場だより

## 和牛試験場

馬場 克一

伯備線新見駅からバスにゆられて約1時間、途中道路工事のため約400米ばかり歩かされたが、どうやら無事に千屋に着いた。バスが千屋に近づくと道路の両側に柵が連なっている。夏だと、公道を「お牛さま」が散歩してバスが止められることもしばしばとか、生活そのものの中に、和牛が大きく位置しているためだそうだ。あちこちの家の、庭先につながれた牛が、雪どけの春の陽を浴びて、深呼吸しているように見える。「なるほど千屋だなという感じがする。」めざすは小高い丘の上の和牛試験場。まず事務所で次のような説明をきく。

### 春のいぶき

今冬は殊の外雪が多くて、昨年来からズーッと雪にとじこめられたままの和牛試験場、夏だと頻繁に訪れるはずの参観者も、客足もとだえ勝ち、農場は一面真白だ。牛舎の軒先には、長さ1米にもおよぶ巨大なつららがきびしい気象条件を表徴し、薄暗い牛舎の中に眼を移せば牛のはく息の白さに、かすかに命脈の存在を知る。気のせいか、雪道の厩肥運搬さえ、氷りついたような感じがする。本当に外観的には全くの冬ごもりである。しかし、ブレインだけは、そうはいかない。年度内業務の反省と来年度（備えての準備が進められているからである。）予算原案編成、試験成績のとりまとめ、業務の整理、それにもまして何より重要な、来年度の試験設計、業務計画の検討等に明け暮れる。果てはまた、行政監査にひと汗かいたかと思えばもう春は3月。雪解けの氷のように、すべてのことが、一気に、現実に躍動をはじめるときだ。長いような短いような冬だった。

### 肥育

農業構造の体質改善という合言葉にのって、和牛の肥育はめざましく普及して来た。肥育で問題となる大きい点は、適切な素牛の選択とともに、いかにして、自給飼料を確保しこれをうまく利用して、生産コストを切り下げるかにある。当场では、昨年からひきつづき自給飼料を主体にしての肥育をテーマ

として、経済的肥育のための試験を行なっている。

つぎに将来の経営の共同化とか多頭飼育に備えて、省力管理による労働生産性の向上などをねらいとした飼養管理の試験も是非行ないたいと思っている。また、和牛の肉は、世界的にも折紙つきの「うまい」肉なので、海外市場への進出も当然具体化されるようにとも思っている。

### 飼養基盤

和牛に限らず、家畜を飼う上で、「草」の重要なことは、論議の域を超えている。和牛飼育では、何といても牧野改良による牧野草に活路が見出されるべきであろう。このことは、将来の和牛発展のためには、決定的要件となるように思われる。幸い、この地方には、相当広い面積の牧野がある。これらの草生改良に着眼して今草地改良事業を推進するよう計画立案中であり、和牛生産の典型的地として、広くお目見えさせたいと思っている。

### 和牛飼育農家の実態把握

場内にとじこもっていると、和牛が農業経営の改善向上のための1つの担い手であるということ忘れて、とかく農家の要望とは、ちぐはぐな仕事をしでかしがちなものだ。農家が和牛をどう思い、何に悩み、何を求め、どんな研究を期待しているか、さらには、牛はどこから買い、どこへ誰の手で売られて行くのか。等について、実態を調査して、農家に役立ちたいと思っている。殊に零細農家と切っても切れない関係にある和牛であればなおさら、その実態をもっとよくつかむ必要があると思っている。

### 技術普及

技術普及としては、出張による講習、講話のほか、和牛飼育地の技術的中心ともなる、青年の教育を目的として、和牛技術講習生の長期講習を行なって、毎年、10名程度募集している。ところが、昨年の応募者は4～5名に止った。和牛技術者の老化現象が顕われつつある時、もっと積極的な応募が期待されている。以上のようなことを、事務所で聞いて、技

## 岡山畜産便り 1961.03

術の人につれられて場内見学。

### 種雄牛

第三安達号と、千代田号という名前の大きな牛が2頭いた。どちらも200貫以上とのことだ。第三安達号は高等登録牛だそう。千代田号は、今、後代検定とかいって、良い子を産ませるかどうか、また悪い遺伝質をもっているかないかの2つについてむずかしい検定試験をしているのだそう。太鼓判を捺されるほどの良い牛となるためには、やはり、牛でも月並みなことでは物足りなくて至極やっかいな試験があるものだと感心した。

### めす牛

みな系統の立派な、謂わゆる毛並みのいい牛ばかりらしい。なかでも、18才にもなるというのに、毎年良い子を産んでいるというお婆さん牛のいるのには驚いた。子出しの良い牛は、このようによく飼って、長く子をとらなければ損だなと改めてきとった。子づれの牛も数頭いた。「この子牛は譲ってもらえるのですか」と言ったら、「ええ、払下げもします。」とのことだった。

### ☆候補種雄牛

年度末で、大きいものは、既に種雄牛として方々へ配置ずみとかで、数頭の大小の候補牛がいた。血統は選り抜きのものばかりの由、体格の方もガッチリとよく繋がっているようで末長く楽しめるもののように見えた。

### ☆肥育試験牛

肉用能力の優れた子牛を確実に産ませるような種雄牛を求めて、「種雄牛の産肉能力に関する後代検定」のための試験牛が、12頭いた。「早く」「多く」「優れた」肉牛をつくるためには、陰でいろいろな努力が積み重ねられるものだと感心させられた。

夏から年末にかけては、いろいろ肥育試験が行なわれるので、まだ20頭位は大きい牛が飼われているとのこと。

その他肉増産の担い手として、豚が沢山飼われていたのには驚いた。

### ☆圃場、草地

圃場草地はまだ雪の下にある。僅かに段々になった草地の斜面が地肌を表わしたところだ。約5ヘクタールの圃場の半分はライ麦で占められているとの

こと。僅かの雪のワレ目

から、春の息吹の力強い青い新芽をのぞかせている。けれども「圃場の面積が足りないので、自給飼料を増して、理想とまで行かないまでも、飼料自給率をTDNで70%位にしたいと思うが、現実との懸け隔ては大きいです」との係の技師の人の嘆きをきかされても、白一色の眺めからは、まだピンと来ない。「あのように階段畑をつくって、オーチャード、クローバー、イタリアンなどを作っていますが、まだまだ傾斜面を開いて草地にし、また裏山の放牧場の中で、条件の良い所を草地に振りかえなければ、和牛のこうした生産にしろ、肥育にしろ、本当に良い形態の経営とはなり得ないと思って、これから、頑張っ条件を整えて行く積りです」という係の人の情熱に引き込まれて、雪を押して、わざわざここまで来たかいたことをよろこびながら、クッキリと白く映える美しい中国山脈の分水嶺に改めて見入ったわけだ。